

新年 謹賀

新年の幕開けにあたり、謹んでご挨拶を申し上げます。

さて、昨年は4月の熊本地震、梅雨期の豪雨、10月の中岳の爆発的噴火など、度重なる自然の猛威に翻弄され、不安や恐怖に苦心した一年でした。

改めて、被災されました多くの皆さま方に心からお見舞い申し上げますとともに、応急復旧に全身全霊でご尽力いただいた関係者の皆さま方、ボランティアの皆さま方、物心両面から温かいご支援をいただいた全国各地の多くの皆さま方に、衷心から深く感謝を申し上げます。

平成24年の九州北部豪雨災害からようやく復興の緒に就き、今まさにアクセルを踏み出そうとしていた矢先、相次ぐ自然災害に、市民の皆さま方の苦悩は計り知れないほど大きいものでした。

平年以上の降雨量があった梅雨期も、自然災害を教訓に市民の皆さまの高い防災意識により、大きな二次災害もなく無事乗り切りました。7月末には全ての避難所を閉鎖、8月末には応急仮設住宅が完成、また、阿蘇の観光振興を支える温泉・宿泊施設なども徐々に復旧の目途が立ち、9月には阿蘇観光のシンボルである草千里方面

ある「阿蘇神社」の楼門や拝殿などの本格工事が11月から開始され、阿蘇市民の皆さまをはじめ再建を心待ちにしている方々にとって、復旧復興へ進む大きな一歩となりました。

一方で、発災後、農業及び商工・観光業など地域経済低迷への危機感から、市役所の若手職員が中心となり、新たな視点で未来の阿蘇市を創っていくと、阿蘇市チャレンジワード「人がつながり創りだす 新しい阿蘇」ONIZUMI ONIZUMIの世界へ」を策定し、今後の市政運営へ弾みをつけました。

そのような中、阿蘇中岳も10月8日の噴火以降、火山性地震及び孤立型微動も少ない状態で経過し、地震による応急的な復旧も進んでいることから、12月16日をもって「災害対策本部」を解散し、「災害復旧・復興対策本部」に発展移行させ、次のステージに向かって目標を新たにしました。

いまだ、国道57号・JR豊肥本線などの交通アクセスをはじめ、生活再建・産業再生・社会基盤整備など完全復旧復興には道半ばではありますが、先人たちから継承されてきた「開拓の魂」を再び奮い立たせ、決して諦めずこの難局を乗り越え、復興への道を切り開

りません。

来年度、市の最上位計画である『第2次阿蘇市総合計画』を策定することにしておりませんが、未来を担う子どもたちの明るく元氣な声が響き、阿蘇市民の皆さま方の誰もが安心安全で快適な暮らしを実感できるまちづくりを目指してまいりたいと考えております。引き続き、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆さまにとりまして、希望に満ちた輝かしい年となりますことをご祈念申し上げます。年頭の挨拶といたします。

阿蘇市長

佐藤 義興

へ行く県道阿蘇吉田線の片側交互
通行が可能となりました。

さらには阿蘇の歴史の象徴でも

き、本市がさらに発展・進化を遂
げていけるように、官民一体と
なって取り組んでいかなければな

明けましておめでとうございます。
平成29年の年頭にあたり、市議
会を代表しまして謹んで新年のご
挨拶を申し上げます。

市民の皆さまには輝かしい新春
を健やかにお迎えのこととお慶び
申し上げます。また、平素より、
市議会の活動につきまして深いご
理解とご支援を賜わり、心から感
謝申し上げます。議員を代表して
厚く御礼申し上げます。

しましては、執行部とより連携を
深め国や県に対し早急な復旧・復
興となるよう要望活動を行って
います。

また、阿蘇中岳第一火口は、昨
年10月爆発的噴火を起こし、人的
被害は免れたものの多量の降灰に
より、市民生活への影響も心配さ
れました。一日も早く以前の安全
な観光地「阿蘇」に戻るよう念願
するものであります。

さて、昨年4月に発生しました
「熊本地震」では、阿蘇市内にお
いても多方面にわたり甚大な被害
がもたらされました。被災されま
した多くの市民の皆さまには、改
めまして心からお見舞いを申し上
げます。ご存じのとおり、立野地
区の崩落により阿蘇地域に通じる
国道57号、J-R豊肥本線の寸断は、
阿蘇地域住民の通学、通勤はもと
より管内の農林畜産業、観光業な
ど、阿蘇地域の生活と経済に大き
な影響を与えております。議会と

議員一同、今後とも市民の皆さ
ま方のニーズを的確にとらえ、市
民生活最優先のもと、皆さまが安
心して暮らせる住みよい街づくり
を基本理念として、直面する課題
解決に全力を尽くしてまいります
でございます。なお一層のご支援、
ご協力を賜りますよう心からお願
い申し上げます。

この一年が市民の皆さま方にと
りまして幸多き年になりますよう
心から祈念申し上げ、新年の挨拶
といたします。

阿蘇市議会議長

藏原博敏



地域の方々に感謝―。阿蘇中央高校伝統の文化祭

湧穂祭

YUSUISAI

「お互いを知る」 文化祭でつながる2校舎の絆

熊 本地震災発災時には、約1カ月の間、臨時休校を余儀なくされた阿蘇中央高校。そのような中、笑顔を取り戻そうと11月19日・20日の2日間、『湧穂祭文化祭』を開催しました。

1日目は、阿蘇校舎でステージ発表を行い、各クラスや農業クラブ、有志団体など素晴らしい発表を見せてくれました。どの発表も普段の教室では見ることができない生徒たちの表情さえも見ることできました。中でも社会福祉科の井麻優香さん(2年)は、「全国高校生手話によるスピーチコンテスト」で第1位となった際の手話発表を披露。熊本地震を題材とした『生きる』は、迫力ある表現力と豊かな表情で心打たれるものがありました。改めて震災時の恐怖、これまでの復興への歩みを考えさせられる時間になりました。また、農業クラブでは「イチゴにおける地域資源を活用したオール電化栽培の研究」を発表し、会場の興味関心を強く引く内容に注目が集まりました。

県内でも珍しい2校舎制を実施している本校では、生徒間において互いの校舎がどのような学習をしているのか、どういった取り組みをしているのかを目にしたり、感じたりできる機会が少なく「互いを知らない」というのが現状です。そのため、こういった文化祭での各学科の発表や実践報告などは「互いを知る」ことに大変いい機会になっており、大切にすべきところだと改めて感じました。

2日目はバザーを中心とした一般公開が行われ、これまでにないほどの来場があり、大盛況。普段交わることの少ない地域の方々と笑顔



日本学校農業クラブ全国大会で 本校生徒が活躍！



写真左から、廣瀬華咲音さん、秋吉楓さん、
山本海登さん、松岡拓人さん、岩永和也さん

『農業高校の甲子園』とも呼ばれる日本学校農業クラブ全国大会が10月26日、27日の2日間、大阪府で開かれ、農業鑑定競技会(森林の部)に出場したグリーン環境科3年の松岡拓人さん(阿蘇中出身)が優秀賞に輝きました。

この大会は農業について学ぶ全国の高校生が研究成果の発表や技術・知識を競う競技が行われるもので、地区予選を勝ち上がった代表のみが出場。松岡さんは「これまでの学習が大会本番で活かされたので、努力することの大切さを改めて感じることができました。この経験を活かして今後も頑張っていきたいと思います。」と、大会への思いを語りました。

このほか、同大会のプロジェクト発表に九州代表として農業食品科3年の山本海登さん(一の宮中出身)、岩永和也さん(阿蘇中出身)、廣瀬華咲音さん(一の宮中出身)、秋吉楓さん(桜木中出身)が出場、入賞は叶いませんでしたが、『イチゴにおける地域資源を活用したオール電化栽培の研究』の発表を通じ、阿蘇で行う最先端の農業を全国に届けました。



- ① 農業食品科で大事に育てた豚を地域の皆さんに振る舞う生徒たち。
- ② 毎年、大盛況で人気の手づくりピザを焼くグリーン環境科の生徒たち。
- ③ 農業食品科の生徒達が今年も大事に育てた野菜。地域の方々に感謝を込めて。
- ④ 「全国高校生手話によるスピーチコンテスト」で受賞最優秀受賞を受賞した社会福祉科井麻優香さんが文化祭で披露。
- ⑤ 販売実習で経験したことをいたして地域の方々に接客を行う総合ビジネス科の生徒たち。

で交流することができました。震災の影響により道路交通状況は決して良いとは言えない中で、たくさんのお客さんの姿は、とても嬉しく感謝の気持ちでいっぱいになりました。ことしの湧穂祭も日頃、生徒たちが一生懸命に育ててきた家畜や草花、野菜・果物、実習を通して磨いてきた技術を、存分に発揮させることができた文化祭になったように思います。

培ってきた知識や技術は、決して学校の授業だけで身につけられたものではなく、さまざまなか場所でもたくさんの方々のことを地域一丸となつて、子どもたちに教えていただいたことで、子どもたちは日々成長できているのだと改めて感じることができました。

これからの阿蘇中央高校は地域に寄り添い皆さまのご協力を賜りながら成長を続けていきます。

(阿蘇中央高校より)